

都留文科大学報

第107号

編集：都留文科大学広報委員会 〒402-8555 山梨県都留市田原3-8-1
都留文科大学内 ☎0554-43-4341 URL : <http://www.tsuru.ac.jp/>

2008.6.25



●新学長就任のあいさつ ……………2

都留文科大学長 今谷 明

●都留文科大学入学式 ……………3

新入生のことば

社会学科現代社会専攻 志村麻維
比較文化学科 佐藤央騎

●文大に着任するにあたって ……………4

社会学科 渡辺豊博教授
社会学科 菊池信輝准教授
社会学科 村上研一講師

●学外研究をおえて ……………7

初等教育学科 清水雅彦教授
国文学科 佐藤明浩教授
社会学科 畑 潤教授
比較文化学科 笠原十九司教授

●就職委員会から ……………11

就職委員長 鈴木武晴教授

●授業評価結果について ……………12

授業評価部会長 前田昭彦教授

●講演会だより 今谷明学長講演会 …14

国文学科 高橋宏幸教授

●文大だより

本学陸上競技部関東インカレ
女子4×400mリレー 2連覇 ……………16
第39回子どもまつりの開催 ……………16
図書館だより／二氏に名誉教授の称号を授与 17
教員免許更新制導入と本学の取組、
都留文科大学「教員免許状更新講習」 ……18
オープンキャンパス開催／文大名画座の開催 …19
人事異動 ……………19

●編集後記／本 ぶんだい堂 ……………20

編集後記にかえて…
広報副委員長 鳥原正敏准教授
本 ぶんだい堂



新学長就任のあいさつ

都留文科大学長 今谷 明

私は横浜市大に18年間勤務しており、その間に都留文大の噂も聞いていました。松本四郎氏は横市大出身で、文大の日本史の教員になられた方です。またかねてより、人口3万余の小都市が大学を直営されている由を承り、畏敬の念を抱くと共に、不思議でたまらなかったこともたしかです。

また本学は、初代学長がかの『大漢和辞典』で有名な諸橋轍次先生、何代目かに日本史の和歌森太郎先生がいらっしゃいます。私は学生時代、修験道のレポートを書いたことがあって、和歌森先生のお名前は早くに知っていました。当時山伏の文献といえば、和歌森先生の『修験道史研究』以外は何もありませんでした。その和歌森先生逝去の報に接したのは私の助手時代で、先輩の横井清氏が知らせて呉れました。和歌森先生の逝去は私達の間では大事件でした。

以上のような大先生の後塵を拝することは鳴澗がましい気がしましたが、「私のような者でもお役に立てるなら」



とつい引受けさせられてしまったのは、毎々のことながら私の迂闊なところではあります。

立候補を承けてしまった以上、止むを得ません。法人化の件については、前々任地の横浜市大で経験があり、前任地の日文研（国際日本文化研究センター）では、法人化直後の4年間を経験しました。また、加藤祐三・西川幸治の両先生（横市大・滋賀県立大の前学長）を日文研の客員にお招きしていた関係で、公立大学の法人化の問題についてはあらかじめ多少の予備知識がありました。また日文研在任の後半2年間は、日本学術振興会の専門調査員を兼務して、文科省のお歴々や若手官僚から、種々の情報を得ることが出来ました。しかし基本的には、本学の法人化は前学長時代にルールが敷かれていたことでありまして、私の干渉出来ることは限られています。ただ教員の待遇につきましても、不利益にならぬよう、身を張ってでも努力する所存であります。

しかし、問題は法人化などよりも、少子化全入時代の到来で、他大学と激しい競争にさらされていることでありまして、その中で優秀な学生をいかに確保するかということの方が、余程の喫緊事でございます。全学教職員にこの危



今谷 明 学長

1942年生まれ
京都大学大学院文学研究科博士課程単位取得。
国際日本文化研究センター教授を経て2008年4月に学長就任。
専門は日本中世史。
近年はヨーロッパ・オリエントの封建制と日本中世の封建制との比較研究に興味を広げている。

機感を共有していただくことが何より肝要と考えております。とくにその点は入試関係の先生方にお任せするとして、当面私の出来ることは、大学の知名度を上げることです。2月に本学学生のインタビューを受けた折も、女子学生から、就活の場で大学の知名度のなさ（会社の幹部に大学名をよく知られていないこと）には情けなくなった、と口説かれた次第です。また私へ祝辞を下すった学者のうち幾人かも「都留文化大学」と書いておられました。

しかし幸い、新聞各紙では好意的に取上げられています。当分の間、私は自分の研究は廃して、大学の宣伝にこれ努める覚悟でありますので、どうか宜しく御支援をお願いいたたく存じます。



都留文科大学入学式 —今年の入学者は825名—

4月6日(日)都の杜うぐいすホールにおいて、昨年から実施されました午前と午後の二部制に分けての入学式が行われました。

午前の部では、初等教育学科208名、社会学科現代社会専攻95名、同学科環境・コミュニティ創造専攻58名の2学科361名の入学が許可され、午後の部では、国文学科151名、英文学科121名、比較文化学科131名、文学専攻科10名、大学院文学研究科21名、学部3年次編入30名の3学科、専攻科、大学院等464名の入学が許可されました。



入学式会場の様子



「花のかげ」を全員で合唱

会場の大ホールは、入学者とその保護者でほぼ満席となり、特に午前の部では通路まで保護者があふれ、盛況のうちに入学認定式が行われました。

式では、今谷明学長の新入生を迎える言葉に続き、小林義光都留市長が祝辞を述べ、入学生代表として午前の部では志村麻維さん(社会学科現代社会専攻)が、午後の部では佐藤央騎さん(比較文化学科)が、それぞれ入学の言葉を読み上げました。

式の最後には本学管弦楽団、吉田悟氏の指揮による「花のかげ」を全員で合唱し、厳粛なうちに式が終了しました。

新入生のことば

社会学科現代社会専攻 志村麻維



午前の部代表
志村麻維さん

春の日差しの中で桜の木々にもちらほらと花が顔を出す季節となりました。

私達はこの良き日、新たな期待を胸に、歴史と文化のあるこの都留文科大学の入学式を迎えることができました。これからの4年間、私達は都留文科大学の学生として恥じぬよう、仲間と助け合い、高

め合いながら、お互いの目標に向かって日々勉学に励み、実りある学生生活を送りたいと思います。

私は大学で現代がかかえる問題をあらゆる視点からとらえ、共通科目では豊かな教養を身につけることが目標です。それと同時に身につけた知識を生かし、仲間の相談に親身になって答え、周囲に目を配りながら、大学の仲間や地域に人と深い関わりを持っていきたいと思っています。

私達は、この伝統ある都留文科大学の学生として、自覚と誇りを持ち、深い専門知識や技術を学び、大きな志を持って社会に飛躍していくことを固く決意しています。

(一部抜粋)

比較文化学科 佐藤央騎



午後の部代表
佐藤央騎さん

暖かな春の光に誘われて、木々の緑が青々と芽吹き始めたこの良き日、私たちは伝統ある都留文科大学の新入生として迎えられることを大変嬉しく思います。私は今日まで両親を始め家族や地域の方々、学校の先生方の暖かな保護の元成長して行くことができました。

これからの4年間は新しい時代を築くために与えられた契機として、学問を通じて見識を深め、そこから創造する力を身につけていきたいと思っています。

また、都留文科大学には日本中のあらゆる地域からたくさんの方が集まるので部活動やサークル活動などを通し、様々な人と出会い、信頼し、協力しあえる仲間関係を築き上げていきたいと思っています。

この伝統ある都留文科大学で、新たな発見や自分自身の成長を楽しみに、充実した4年間が過ぎることを願い、新入生代表の言葉とさせていただきます。

(一部抜粋)

新教員紹介

文大に着任するにあたって

趣味は、「NPOの事務局長」



社会学科教授
渡辺豊博

私の趣味は何ですかと尋ねられたら、「NPOの事務局長」と答えている。現在までに、三島ゆうすい会、三島ほたるの会、グラウンドワーク三島、富士山クラブ、富士山エコネット、富士山測候所を活用する会など、8つの市民組織の事務局長を担ってきているし、今も多くを担っている。

何が楽しくて、こんな大変な役職を、20年近くも続けているのであろうか。実は、この4年ほど、土・日曜日のほとんどは、実質的には休んでおらず、これらの市民活動に時間と神経を費やしている。当然、家族の反発も強く、「熟年離婚」の恐怖に常態的に悩まされている。

このモチベーションと問題意識、責任感、行動力の源泉は、どこに起因しているのであろうか。当然、活動は無償の行為であり、金銭的な対価は望めない。逆に、組織運営上の責任となる資金調達や人材育成、事業運営・管理など、多種多様な課題を処理しなくてはならず、多くの重圧が負荷される。これらから、逃避することも可能だが、何故、責任放棄、回避しないのであろうか。

その理由は簡単だ。とにかく、「仕掛けや夢売り人間としての大いなる夢」を現実的

に地域の中で実現できるからだ。自分一人では、決して成し遂げられるものではないが、逆に、多くの賛同者を募り、同士としての信頼関係を育成し、困難に挑戦する中から、夢や未来図を具現化していける夢舞台なのだ。

特に、関わった子どもたちや地域住民の「心や行動」が、自立的・主体的な方向に移行し、その劇的な変化を実感した時の喜びは、金銭や地位とは比較できない、大人の「満足・給与」といえるものである。

活動の「証」は、汚れた川や街中から、ゴミが消え、逆にゴミを捨てずに拾う人が増えることであり、結果的に川や街が美しく保たれることである。また、環境資源の再生が、観光資源としての付加価値を誘発し、街歩きの観光客が増え、空き店舗の減少や収益増に連動していく成果を実感できることである。

とにかく、活動の合言葉は、

「右手にスコップ・左手に缶ビール」と単純だ。地域を変革していく、感動がなくては、他人は応援してくれない。今まで、この人間ネットワークの力で、困難や障害を乗り越え、成果を蓄積してきた。

本年から、大学の世界に入り、自分の役割に少し困惑しているが、ふるさとで培ってきた実践的・先験的な経験知、現場学を、学生たちに、臨場感ある講義内容により伝えていきたいと張り切っている。特に、35年間にわたり在職した行政の光と影を人生訓とともに、生々しく伝えていきたいとも考えている。

また、富士山についても、実践的な「富士山学」として、体系的・総合的・学術的な情報提供を通して、都留文科大学発信の富士山再生論を、社会に提言していきたいと考えている。楽しく、愉快で創造的なお酒が、ここ都留においても飲めればと期待している。



源兵衛川での三島バイカモ保護活動

新教員紹介

文大に着任するにあたって

紆余曲折の末に



社会学科准教授
菊池信輝

5月某日、ゼミの学生と初めてのコンパをやりました。うれしいことに学生の方からお誘いをいただきました。

そもそも90年代初頭に大学を出たとき、私が研究者になるとは思いもよりませんでした。苦学生でしたので、大学院に行くことすら想像できなかったからです。

また、バブル崩壊後の不況は長引くだろう、少子化は改善することはないだろう、と卒論に書いていた私にとって、そうした問題解決を実践する方が大きな課題に感じられていたからです。

ですから、最初の就職先であった民間のシンクタンクは、心の奥にしまった研究者へのあこがれと、実践との、両立を適えることができる場所となるはずでした。

この職場では、マクロ経済予測からスキー場の経営コンサルティング、地方自治体の総合計画づくりの下請け、多摩川の源流探索や自由民権期の史跡を訪ねる市民団体のお世話まで、ありとあらゆる分野の調査・研究に携わりました。

「お金のために研究することの悲哀は十分すぎるぐらいに味わわせていただきました。詳細はお話すべきではないでしょう。要約すると、

すぐに日本が成長軌道に戻ると考えるその民間シンクタンクの方針と、私の見解が大きく隔たっていたことが問題でした。

そんなわけで、今度は中央官庁傘下の公共系シンクタンクに移籍してみました。ここでは当時創生期だったインターネットの研究が主です。ようやく落ち着いて研究できる日々がやってきたと思ったものでした。

ところが95年の1月、思いがけない大事件が発生します。阪神淡路大震災です。

最近の中国四川大地震では、阪神淡路大震災の現地調査の思い出が蘇り、胸が痛みました。現地ではあらゆる情報が途絶し、張り紙と口コミに頼るしかなく、物資はテレビがたまたま報道した地域に集中する有様でした。

思えばこの大惨事が私が研究者を目指す決心をしたきっかけでした。なぜ官僚主導型の中央集権国家と言われる日本が、大災害時、すぐに有効な対処ができなかったのか。なぜ被災者を突き放すような政策しか講じようとしな

か。

大学に戻り、現代日本がなぜこういう国になったのかを根本から考え直そう、そう思ったわけです。

大学院では、一貫して現代日本の成り立ちを研究しました。しかし、何分大学院に入るのが遅かった上に、近代日本から研究をやり直したため、博士号を取得したときには既にいい歳になっていました。

当然そう簡単に専任教官で採用されるはずがありません。かなり絶望的な状況だと自覚していましたが、非常勤講師としてひたすら修行を積み、他方、生活のために雑文を書き散らし、筆を汚すこともありました。

そして、今年ダメだったら諦めよう、そう思っていたところにお声を掛けていただいたのが、都留文科大学だったのです。

ゼミコンパの際、ゼミ生にも話したことなので、ここでも正直に書いておきます。ずいぶん遠回りをしたが、やっとここまで来た、残りの人生を教育と研究に捧げよう、これが私の偽らざる心境です。



書き散らかした雑文の数々

新教員紹介

文大に着任するにあたって

感謝と抱負



社会学科講師

村上研一

都留文科大学に着任させていただいてから1月半、素直で向学心に満ちた学生の皆さん、研究と教育の一層の充実に向けてご精進されておられる先生方、教育活動の支援・運営にご尽力されている職員の方々の姿に触れ、素晴らしい大学の一員に加えていただいたことの喜びを日々実感しております。同時に、自らの未熟さへの反省も益々深まり、手探りの努力を続けている毎日です。以下、私のこれまでの研究の概要を紹介させていただき、今後の抱負を述べさせていただきます。

私は11年前、横浜市立高校に就職し、はじめに商業高校、次に三部制の定時制高校に勤めました。教科指導や生徒指導に加えて就職指導を担当し、東京都南部・川崎・横浜などの事業所を求人依頼に回ったり、生徒の就職先選定についてともに考えたり、社会に出ていった卒業生と話したりする中で、経済社会の深刻な現実とそれに直面する人々の思いを体感しました。そうした中で、未熟な私自身に対する指導も含めて、学校現場で、また職業社会で「人を育てる」熱意をもった人々の思いに触れることができました。こうした経験と思いが原点となって、また「教える」

ということの重みを感じつつ、経済学・現代日本経済の研究をさらに深めることとなりました。私の研究は、再生産（表式）論を理論的基準として、産業連関表を中心とする統計資料から現代日本経済の構造とその変容を分析することを課題としてきました。その後、夜間の大学院に入り直しましたが、指導教授をはじめとした先生方から、社会人学生である私のために夏・冬休み中の長時間にわたる研究指導や、国内外の工場調査に同行させていただく機会をいただきました。こうして、経済データを用いた現代日本経済の構造分析において、理論的考察とともに生産・労働の現場の動向を踏まえて研究をさらに深化させていく意義を学び、今後ともこうした課題に取り組んでいきたいと考えています。

このように、これまでの自分の職歴と研究を振り返ると、問題意識の出発点となった職業教育の現場で、また大学で、さらに広く教育活動を通じて、多くの方々から学ぶことの意義や喜びをお教えいただいたことが想起されます。そして、職場と研究だけでなく、様々な面で私の人格形成にあたってお世話になった多くの方々のお導きによって、都留文科大学に就職できるという幸せを得ることができたものと感謝しております。今後は、大学の先輩の方々にお教えをいただきながら、学生の皆さんはじめ多くの方々とともに、私が享受させていただいてきたような学びの場を築き、また微力ながら大学の発展に貢献させていただきたいと存じております。どうぞ、よろしく願い申し上げます。



自動車部品サプライヤーが集積する日産自動車追浜工場に程近い横須賀市北部の工場団地



初等教育学科教授
清水雅彦

常春の国“グアテマラ”で、嬉しい出会いを重ねることができたことを今しみじみと思いつつ、貴重な研究の時をお与えくださった大学に、また色々な面でサポートして下さった皆様に感謝申し上げます。

中米・グアテマラ共和国は日本との時差が15時間、北緯15度あたり（マニラやバンコクと同緯度）に位置するため熱帯性の気候帯に入りますが、発達した都市は高原地帯にあるため冷暖房を必要としない、常春を楽しめる地でもあります。北米からメキシコに南下し、その先に隣接するのがグアテマラ。人口1200万人強のうち、マヤ系先住民が52%、先住民とスペイン双方が祖先であるというメスティーソが45%、公用語はスペイン語、宗教はキリスト教徒（カトリック）が80%と言われる国です。グアテマラレイボーと呼ばれるカラフルな織りの民族衣装を身にまとった先住民の方たちが、教会で敬虔な祈りを捧げている姿は誠に印象的で、この国が歩んできた歴史を思い、大きな感慨に包まれます。

さて私がアパート生活を送ったアンティグアは、スペインのコロニアル建築が残る侵略当時から政治や交通の要所として栄えた所で、石畳の世

今後に繋がる研究滞在を終えて

界遺産の街です。1773年の大震災で壊滅的な被害を受けグアテマラシティに首都が移されたことが、逆に往時を忍ぶ壮麗な修道院や教会がそのまま保存される所となり、独特なたたずまいを見せています。音楽を学ぶ者として、如何にキリスト教が音楽に多大な影響を与えてきたか、同時にそれぞれの時代や地においてどのような世俗音楽が生まれ融合してきたかは誠に興味深いものがあります。2002年に初めてグアテマラを訪れる機会を得、その後毎年在グアテマラ日本大使館主催“日本文化フェスティバル”に招かれる中で「中米とメキシコにおける声楽・合唱曲の作品と作曲家研究」をテーマにした研究の本拠地をグアテマラとしたのは、誠に必然的なことでした。

私の滞在に合わせ“合唱指揮者のためのディプロマコース”が国立音楽学校に開設され、4月当初より声楽と指揮法の講義もたどたどしいスペイン語で行った他、1年の後半は中米各国とメキシコを周り、多くの音楽家、楽譜や音源に接することができました。スペインが渡来した後、アメリカなど諸外国との関連に翻弄されながら今に至っている



アンティグア・カテドラル前での演奏会

中米各国とメキシコはひとまとめにしては説明できないほど、その歴史や習慣、人々の性格などが違います。音楽が気候風土と歴史の中に生まれ、今に育まれていることを再認識できた滞在でもありました。これらの出会いをもとに、今後さらに中南米にカリブ地域を加えた広い地域の音楽研究、演奏、交流に繋げて行きたいと考えています。今回の研究発表の一環として、来年3月15日（日）東京・カザルスホールにて、グアテマラのホルヘ・サルミエントス氏へ委嘱した声楽作品の発表を行う予定です。あらためてご案内させていただきます。



ホルヘ・サルミエントス氏と



国文学科教授
佐藤明浩

かけがえのない時間

学外研究の1年間、私は、東京大学文学部に公立大学研修員として、受け入れていただいた。担当の渡部泰明教授にお願いして、大学院の演習に出席させてもらい、学期中は、ほぼ毎週火曜日、東大に通った。

演習で取り上げられたのは、宗尊親王の『中書王御詠』。宗尊は後嵯峨院の皇子で、11歳の時、第六代将軍として鎌倉に下るが、25歳にして将軍職を解かれ、京都に帰されてしまう。その翌年、藤原為家に批評を乞うために、自らの和歌を集成して送ったのが『中書王御詠』である。近時、冷泉家時雨亭叢書『中世私家集七』（朝日新聞社刊）に収載された同書は、所々に為家自筆の評言がみられる貴重なもの。各自、2～3首の和歌を選んで注解を加え、問題点の考察を発表する形で演習はすすめられた。院生にまじって私も1回分担当させてもらった。作歌の裏に将軍解任後の失意が窺えたり、後の京極派和歌に通じる独特な表現がまみられたりと、興味深い事象に接し、目が開かれた。何よりも、学生にもどったつもりで存分に勉強させてもらったのがありがたかった。

行き先に母校でもない東大を選んだのは、国語学研究室、国文学研究室などに蔵される

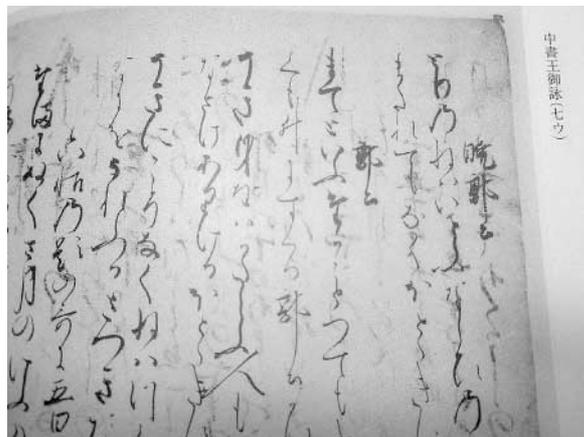
古典籍にじっくり実見したいものがあつたからでもあるが、とくに史料編纂所の資料を多く見られることに大きな期待をよせていた。ところが、学外研究の始まる直前に耐震性能不足のため、同所閲覧室は閉鎖となつてしまい、史料等の現物は閲覧できなくなつてしまった。何ともタイミングの悪いことで、残念であったが、それでも学内の図書館等に自由に出入りして調べ物ができる環境は、恵まれたものだった。たとえば、総合図書館の書庫には、活字本に交じって、写本や版本が並んでいる。そして、たいていの書籍は、2週間借り出すことができる。歌集や歌学書を中心に、今回はこれ、次はそれと、半ば楽しみながら写本、版本を選んで借り出し、じっくり眺め、調べることができたのは幸いであつた。

古典籍の調査といえば、図書館、文庫を訪ねて閲覧する

機会も、普段より多く得ることができた。たとえば、10月の下旬には、松江で開かれる和歌文学会大会に参加するついでに一というには大回りだが、今治市河野美術館を訪れ、『久安百首』『堀河百首』など百首和歌の写本をまとめて閲覧することができた。翌日には福山から鞆の浦を回つて、朝鮮通信使関係の史蹟や資料をゆっくり見分し、倉敷で美術館を巡ってから松江に。普段であれば、学会に行つて帰るのが精一杯のところ、やや贅沢な行程をとれたのも、学外研究期間ならではのことである。

研究生活としては、至福の一年間であつた。この貴重な機会を与えてくださった皆様に、深く感謝し御礼申し上げます。そして、研究者の命綱であるこの制度が、今後とも、現状以上の水準でずっと維持されるよう、強く望みます。

中書王御詠
(冷泉家時雨亭叢書『中世私家集七』)



学外研究報告

学外研究を終えて



社会学科教授
畑 潤

2007年度前期の学外研究期間を終えて

私は、2007年度の前期を学外研究期間として保障され、研究に専念することができた。この期間私は、東京大学大学院教育学研究科教育行政学研究室（小川正人教授）に研究員として受け入れて頂き、教育学部図書館を自由に使わせてもらった。小川教授はかつて都留文科大学で非常勤講師をしたことがあるということで、純朴な学生が懐かしいと語っておられた。彼の近著を頂くなど、限られた時間であったが旧交を温めることができた。また金子元久学部長ともお話する機会があり、彼の近著『大学の教育力一何を教え、学ぶか』（ちくま新書）を頂いたが、教養論の検討を基軸にしたものであり、私自身の関心と大いに交わるころがあり、離れていても遠くはないという感想が湧いた。ちょうどそのころ私はキケロー読み専念していたので、彼の著書のトーンとの重なり軽い驚きの感情が湧いた。

さて私が専門領域にしている社会教育（生涯学習）の研究は、近代的な社会教育を対象とすることが一般的である（つまり社会における教育一般ではなく近現代の社会事象を対象とみる）。私もそのことに異論はないが、人間と教育の思想はルネサンス、さらには古代社会へと遡って理解

する必要があるという問題意識をもっている。そういう探究の素地をもたないと、近現代の事象も思想も深く把握することはできないだろうと考えている。この学外研究期間中も、その問題意識のもとに、具体的には古代ギリシア思想を社会教育思想として理解していく試みを前進させようとした。日本の社会教育研究で古代ギリシア思想（哲学）が論じられることはほとんどなく、当然にも共同研究というものはまだ成立しない。私自身、どのように社会的に提案していくか、一人で手探りを重ねているといった気分である。その手探りの一端は、「ヒューマニティの思想の現代性について—ギリシア的パイデイヤー（教養）の再生を考える—」という小論（教育科学研究会『教育』2008年2月号所収）に表してみた。教育研究はいつも教育実践とともにあることが大事だが、どうしても教育研究が独自に引き受けなければならないことがらあると私は考えており、思想史に向かうこともその一つだと思っている。

この研究期間中は、必要な文献の収集を進めることができ、それだけでもうれしいことであったが、古典学者であるW. イェーガー（1888～1961）の仕事に向かうこと

ができた。私にとってホメロスやソークラテース、プラトーンとの出会いは、言葉には表せないほどの喜びであるが、そうした次元とは異なって、私はこのイェーガーとの出会いをしみじみとうれしく思っている。自分の本当の先生にやっと出会えたという思いがある。たとえば、農民詩人ヘーシオドスの作品『仕事と日』は、今から2,700年前のものであるが、一人の個性が農民・民衆の感情として仕事と正義を歌っており、私たちの意識に降り積もっている「常識」を幾重にも問い直させるものがある。イェーガーの著作はこうしたことなどを案内してくれる。

語学の壁に苦しみながらも、さらに自分の研究をすすめていきたいと考えている。



30年前の東京大学総合図書館（本郷）入り口で、今も昔も変わらない

学外研究

学外研究を終えて



比較文化学科教授
笠原十九司

私は駒場にある東京大学大学院総合文化研究科の公立大学研修員として受け入れていただき、イギリス史・世界現代史専門の木畑洋一教授の研究室に所属して、1年間研究活動に従事することができた。水曜日の午後第4限に行われた大学院木畑ゼミの授業に毎週出席したほか、時に木畑教授の担当する学部生ゼミに参加して学生と討論したりした。

水曜日は、駒場キャンパスにあるメニュー豊富な食堂で昼食をしてから、アメリカ太平洋地域研究センターに行つて、静かな図書閲覧室で文献史料を読み、それから木畑ゼミの授業に参加した。同ゼミは、博士課程の院生が中心で、イギリス、ロシア、中国からの留学生もいて国際色豊であった。ゼミ終了後は、渋谷や下北沢に出かけ、飲み屋でゼミ討論の延長をおこなった。博士課程の院生は各自が専門に関して海外留学や海外調査の経験があったので、話題が豊富であり、私も啓発されながら彼らとの会話を楽しんだ。

私自身は、「第一次大戦期の中国民族運動と東アジア国際関係」というテーマで、私の若い頃の一連の研

「静」と「動」の研究生活に恵まれて

究業績を整理しながら、最近とみに盛んになってきた東アジア国際関係の研究動向を踏まえながら、研究をまとめる作業をおこない、木畑ゼミでも2回ほど報告させていただき、有益なコメントをいただいた。

若い頃に取り組んだテーマを現在の自他の研究水準から捉えなおすことができ、生涯にわたり一つのテーマを追求して研究できる平和な時代に生き、またその研究条件に恵まれた私は、つくづく幸運であることを痛感した。

私の学外研究は、東大駒場での公立大学研修員としての研究生活が「静」であったのに対して、開催10カ国におよんだ南京事件70周年国際シンポジウムへの参加・報告は「動」の研究活動だった。開催国と会場、主催団体、月日を列記すると以下のとおり。

- ①アメリカ：合衆国平和研究所（ワシントンDC, 3.30）
- ②カナダ：トロント大学東アジア研究所（6.11）
- ③イタリア：フィレンツェ大学（9.24 - 25）

④フランス：パリ・ドイツ研究所（フランス現代史研究所、10.1）

⑤スウェーデン：ストックホルム国際平和研究所（10.5）

⑥ドイツ：ハレ・ウィッテンベルグ・マルチン・ルター大学（10.8）

⑦韓国：高麗大学・アジアの平和と歴史教育連帯（ソウル、11.3）

⑧中国：南京大学・南京師範大学（11.24 - 25）

⑨日本：明治大学（12.15 - 16）

⑩フィリピン：アテネオ・デ・マニラ大学、フィリピン大学（2008.3.18 - 19）。

前半が欧米、後半が東アジアにおける開催となったが、「戦争・虐殺・記憶・和解」のテーマで、それこそ世界を股に掛けて各国の研究者と交流・対話できたことは、貴重な経験であり、1年間の学外研究期間を与えていただいたからこそ、可能だったのである。「静」と「動」の両面にわたる貴重な研究生活・活動の機会が与えられたことに感謝している。



国立東洋言語文化学院において講義する筆者
（2007.10.3パリ）



左の講義を熱心に聴く学生

就職率95%を超える



就職委員長 鈴木武晴

平成20年3月の卒業生の就職率は、表1に示したように95.3%で、前年度よりも0.5%アップし、95%を超えた。

表2には就職先別の人数を示している。教員は、公立学校に132名（前年より6名増）。私学と合わせれば138名。表2dは、公立学校県別採用状況である。北は北海道から南は沖縄に至る。ここに挙げていないけれども、平成

19年3月以前の既卒者の採用数も、3月時点の把握で57名に及んでいる。その数を合わせれば、この4月から189名が公立学校の教壇に立っていると見える。このことは、各人の努力はもちろんのこと、本学同窓会の先生方の厳しくあたたかなご指導のおかげである。今年度もすでに4月に教員採用試験対策懇話会、5月に模擬面接会においてご指

導いただいた（写真参照）。記して感謝申し上げる。

公務員の数は前年を下回った。その主因は、郵政公社が郵政事業株式会社などの郵政グループに改められ、その就職者数が企業の方にカウントされたためである。

企業就職者は、情報処理関係の企業への進出が39名で、前年を12名上回った。

表1. 平成20年3月卒業生就職状況（前期卒を含む）

(平成20年3月31日現在)								
就職希望者数			就職決定者数			決定率		
男	女	計	男	女	計	男	女	計
159	331	490	149	317	466	94.3%	95.8%	95.3%

$$\text{就職率} = \frac{\text{就職決定者}}{\text{就職希望者}} = \frac{466}{490} = 95.3\%$$


模擬面接会の様子

表2. 就職先別人数（単位：人）

a	<table border="1"> <tr><td rowspan="7">教員</td><td>小学校</td><td>112</td></tr> <tr><td>中学校</td><td>10</td></tr> <tr><td>高等学校</td><td>6</td></tr> <tr><td>養護学校</td><td>4</td></tr> <tr><td>公立学校計</td><td>132</td></tr> <tr><td>私立学校計</td><td>6</td></tr> <tr><td>合計</td><td>138</td></tr> </table>	教員	小学校	112	中学校	10	高等学校	6	養護学校	4	公立学校計	132	私立学校計	6	合計	138	c	<table border="1"> <tr><td rowspan="11">企業</td><td>農業</td><td>0</td></tr> <tr><td>建設業</td><td>4</td></tr> <tr><td>製造業</td><td>32</td></tr> <tr><td>電気・ガス熱供給業</td><td>2</td></tr> <tr><td>運輸通信業</td><td>31</td></tr> <tr><td>卸小売業</td><td>77</td></tr> <tr><td>金融保険業</td><td>31</td></tr> <tr><td>不動産業</td><td>5</td></tr> <tr><td>サービス業</td><td>88</td></tr> <tr><td>情報処理</td><td>39</td></tr> <tr><td>合計</td><td>309</td></tr> </table>	企業	農業	0	建設業	4	製造業	32	電気・ガス熱供給業	2	運輸通信業	31	卸小売業	77	金融保険業	31	不動産業	5	サービス業	88	情報処理	39	合計	309	d	公立学校県別採用状況（臨採含む） <table border="1"> <tr><td>北海道</td><td>2</td><td>岐阜</td><td>2</td></tr> <tr><td>宮城</td><td>1</td><td>三重</td><td>1</td></tr> <tr><td>山形</td><td>2</td><td>滋賀</td><td>2</td></tr> <tr><td>福島</td><td>4</td><td>大阪</td><td>5</td></tr> <tr><td>茨城</td><td>2</td><td>兵庫</td><td>3</td></tr> <tr><td>栃木</td><td>1</td><td>鳥取</td><td>3</td></tr> <tr><td>埼玉</td><td>2</td><td>岡山</td><td>1</td></tr> <tr><td>千葉</td><td>6</td><td>広島</td><td>2</td></tr> <tr><td>東京</td><td>10</td><td>山口</td><td>1</td></tr> <tr><td>神奈川</td><td>32</td><td>徳島</td><td>1</td></tr> <tr><td>石川</td><td>3</td><td>愛媛</td><td>2</td></tr> <tr><td>山梨</td><td>15</td><td>熊本</td><td>1</td></tr> <tr><td>長野</td><td>6</td><td>鹿児島</td><td>1</td></tr> <tr><td>静岡</td><td>6</td><td>沖縄</td><td>1</td></tr> <tr><td>愛知</td><td>14</td><td>合計</td><td>132</td></tr> </table>	北海道	2	岐阜	2	宮城	1	三重	1	山形	2	滋賀	2	福島	4	大阪	5	茨城	2	兵庫	3	栃木	1	鳥取	3	埼玉	2	岡山	1	千葉	6	広島	2	東京	10	山口	1	神奈川	32	徳島	1	石川	3	愛媛	2	山梨	15	熊本	1	長野	6	鹿児島	1	静岡	6	沖縄	1	愛知	14	合計	132
教員	小学校		112																																																																																																				
	中学校		10																																																																																																				
	高等学校		6																																																																																																				
	養護学校		4																																																																																																				
	公立学校計		132																																																																																																				
	私立学校計		6																																																																																																				
	合計	138																																																																																																					
企業	農業	0																																																																																																					
	建設業	4																																																																																																					
	製造業	32																																																																																																					
	電気・ガス熱供給業	2																																																																																																					
	運輸通信業	31																																																																																																					
	卸小売業	77																																																																																																					
	金融保険業	31																																																																																																					
	不動産業	5																																																																																																					
	サービス業	88																																																																																																					
	情報処理	39																																																																																																					
	合計	309																																																																																																					
北海道	2	岐阜	2																																																																																																				
宮城	1	三重	1																																																																																																				
山形	2	滋賀	2																																																																																																				
福島	4	大阪	5																																																																																																				
茨城	2	兵庫	3																																																																																																				
栃木	1	鳥取	3																																																																																																				
埼玉	2	岡山	1																																																																																																				
千葉	6	広島	2																																																																																																				
東京	10	山口	1																																																																																																				
神奈川	32	徳島	1																																																																																																				
石川	3	愛媛	2																																																																																																				
山梨	15	熊本	1																																																																																																				
長野	6	鹿児島	1																																																																																																				
静岡	6	沖縄	1																																																																																																				
愛知	14	合計	132																																																																																																				

2007年度授業評価アンケート結果より

授業の出席率は良いが、 授業内容の理解は今ひとつ



授業評価部会長 前田昭彦

本学では、2003年からマークシート方式で学生による授業アンケートを行っているが、昨年度の結果について報告する。

まず、実施状況を教員ベースに見ると、前期は全教員298名中187名が参加し、62.8%の教員が実施した。後期は303名中147名が実施で、48.5%と下がっている。とりわけ、専任教員の実施率が、前期55%から後期35.6%とかなり減少した。2004年後期に76%の実施率をピークに減少し、落ち込みが顕著である。これに比べ、非常勤講師の実施率は、例年50%台だったが、前期65.6%は過去

最も良い数値であった。後期は53.7%で、ほぼ例年並みの数値である。

科目ベースで見ると、前期は986科目中283科目で実施(28.7%)。後期は832科目中、256科目(30.8%)。このところ、おおむね3割強の実施率であったのでやや低調である。

質問項目は大きく3ブロックに分かれ、学生の授業への取り組み4問、授業の進め方4問、授業内容・成果について8問の合計16問がある。例年通り、各質問について5段階の順序尺度で回答してもらった結果について、便宜的に平均値をとり、5点満点の

評点として見なした結果が表1、表2である。

授業の種類別に見たのが表1。総合評価にあたる問16でみると、授業全体では2007年前期4.07、後期4.11、講義4.01、4.06、外国語科目等4.08、4.08実習等4.51、4.47となっている。昨年度は3点台の項目もあったが、今年は全部4点以上の評価となった。講義に比べ、実習系科目の方が評価が高い、前期より後期の方が全体、講義科目で評点が上昇するというのは、昨年と同じ傾向である。

他の設問を見ると、比較的评价が高いのは、「授業への出席」(4.34-4.21)、「授業で

表1 授業形態に見た各項目の平均値(2007年度)

	全 体		講 義		外国語科目		実習・実験・実技	
	2007前期	2007後期	2007前期	2007後期	2007前期	2007後期	2007前期	2007後期
A 学生の授業への取り組み								
1. 授業への出席	4.34	4.21	4.31	4.18	4.39	4.18	4.57	4.43
2. 授業での集中	4.06	4.03	3.97	3.95	4.19	4.09	4.57	4.51
3. 予習復習	3.07	3.09	2.99	2.98	3.43	3.44	3.26	3.5
4. 授業内容の理解	3.72	3.76	3.65	3.69	3.73	3.7	4.26	4.23
B 授業の進め方								
5. 説明・指示のわかりやすさ	3.91	3.97	3.86	3.91	3.89	3.97	4.38	4.35
6. 話し方・板書のわかりやすさ	3.91	3.96	3.85	3.89	3.93	4.05	4.4	4.32
7. 教材の使い方	4	4.06	4.02	4.07	3.89	3.9	3.93	4.11
8. 学生の理解に応じていたか	3.82	3.86	3.76	3.79	3.88	3.92	4.24	4.23
C 授業内容・成果について								
9. 内容構成のわかりやすさ	3.94	4	3.89	3.95	3.97	3.94	4.37	4.34
10. 知的な刺激があったか	3.93	3.99	3.91	3.96	3.82	3.81	4.27	4.3
11. 講義要項との対応	4.07	4.06	4.03	4.02	4.03	4.03	4.42	4.37
12. 授業レベルの適切さ	3.87	3.9	3.84	3.87	3.79	3.72	4.21	4.22
13. 知識・考え方などの習得	4	4.05	3.98	4.03	3.88	3.78	4.38	4.37
14. 興味・関心を広げたか	3.95	4.02	3.95	4.01	3.77	3.73	4.21	4.28
15. さらに勉強していきたいか	3.71	3.76	3.68	3.73	3.76	3.7	3.95	3.98
16. 履修して有意義であったか	4.07	4.11	4.01	4.06	4.08	4.08	4.51	4.47

授業評価結果について

表2 各学科専門科目・共通科目別に見た項目の平均値（2007年度）

	初教専門		国文専門		英文専門		社会専門		比文専門	
	2007前期	2007後期								
A 学生の授業への取組み										
1. 授業への出席	4.44	4.33	4.18	4.06	4.33	4.32	4.26	4.09	4.37	4.12
2. 授業での集中	4.15	4.22	3.91	3.76	4.04	4.3	3.87	3.82	3.96	3.96
3. 予習復習	3.1	3.23	2.98	2.84	3.16	3.54	2.99	2.94	2.88	3.04
4. 授業内容の理解	3.9	4.02	3.56	3.35	3.62	4.08	3.45	3.51	3.5	3.6
B 授業の進め方										
5. 説明・指示のわかりやすさ	4.02	4.15	3.81	3.61	3.9	4.34	3.72	3.73	3.77	3.8
6. 話し方・板書のわかりやすさ	4.03	4.14	3.81	3.68	3.95	4.39	3.64	3.63	3.74	3.76
7. 教材の使い方	4.09	4.17	3.93	3.72	4.06	4.4	3.84	3.92	4.13	4.11
8. 学生の理解に応じていたか	3.95	4.05	3.71	3.5	3.75	4.15	3.56	3.57	3.62	3.68
C 授業内容・成果について										
9. 内容構成のわかりやすさ	4.05	4.18	3.79	3.63	3.91	4.33	3.73	3.77	3.86	3.88
10. 知的な刺激はあったか	4.04	4.16	3.83	3.65	3.89	4.28	3.75	3.8	3.98	3.95
11. 講義要項との対応	4.08	4.17	4.05	3.94	4.07	4.32	3.89	3.83	4.14	4.1
12. 授業レベルの適切さ	4.01	4.11	3.81	3.58	3.79	4.17	3.67	3.71	3.66	3.79
13. 知識・考え方の習得	4.1	4.23	3.93	3.78	3.91	4.27	3.88	3.86	4.01	3.98
14. 興味・関心を広げたか	4.08	4.21	3.82	3.73	3.87	4.24	3.86	3.85	4	3.98
15. さらに勉強していきたいか	3.84	3.94	3.53	3.34	3.65	4.05	3.52	3.59	3.69	3.71
16. 履修して有意義であったか	4.14	4.28	3.94	3.81	4	4.41	3.88	3.88	4.01	4.05

の集中」（4.06－4.03）、「教材の使い方」（4.00－4.06）、「講義内容との対応」（4.07－4.06）、「内容構成のわかりやすさ」（3.94－4.00）、「知識・考え方の習得」（4.00－4.05）、「興味・関心を広げることができた」（3.95－4.02）など。これらも例年と大きく変わっていない。

評価の低いのは、「予習・復習」（3.07－3.09）、「授業内容の理解」（3.72－3.76）、「学生の理解度に応じた授業の進め方だったか」（3.82－3.86）、「当該分野等をさらに勉強していきたいか」（3.71－3.76）など。特に「予習・復習」＝「授業中以外の時間に、予習、復習あるいは授業内容を発展させるための努力をしたか」については、アンケート実施当初から一貫して評価の低い項目である。

例年、「出席率はよく、知

識・考え方・技能の習得にはつながっているようだが、授業内容の理解は今ひとつ、特に予習・復習や発展的な自主的な学習がなされておらず、当該分野をさらに深く探求する意欲の開発に結びついていない」というような総括をしてきたが、今年度も大きく変わっているとはいえない。なお、表2に各学科専門科目別の結果をあげておく。

以上のように、アンケートの全体を見るとほぼ例年通りの傾向であり、結果を見る限り、本学の授業に大きな問題があるとは言えない。しかしながら、問題は冒頭に述べた専任教員の実施率が落ちていることであろう。現在のやり方は、基本的にアンケートを実施するかは個々の教員の判断にゆだねられており、公開のしかたも表1、表2のような全体結果に限られている。

共通教育		共通専門	
2007前期	2007後期	2007前期	2007後期
4.33	4.18	4.52	4.21
4.12	3.94	4.34	4.23
3.1	2.95	2.98	3.02
3.81	3.65	3.82	3.78
3.98	3.91	3.9	4.13
3.98	3.91	3.83	4.09
3.96	3.96	3.87	4.15
3.92	3.84	3.72	4
4.02	3.94	3.94	4.14
3.97	3.91	3.72	3.98
4.12	4.01	4.05	4.26
3.94	3.82	3.75	3.94
4.03	3.96	4.19	4.29
3.97	3.93	3.84	4.01
3.77	3.68	3.69	3.83
4.16	4.05	4.19	4.29

本年度も例年同様の方法で、授業アンケートは実施するが、来年度以降の実施方法については、本授業評価部会の親委員会である自己点検・評価委員会に検討をお願いしているところである（なお、以上で表明している見解は、基本的に私見であることをおことわりしておく）。

学長講演会を聞いて

国文学科教授 高橋宏幸

今谷明新学長は、学長室の一角に書架を並べ書籍や資料を配して書斎にするという歴代学長に例を見ない、30冊余の著書をお書きになっている日本中世史の現役研究者で、今回、学長のお人柄・研究を学生や市民に広く知ってもらいたいという企図からの講演会であった。「研究職・行政職より学生の前で話す方が楽しい」とおっしゃるように、約1時間楽しそうに講演なさった。演題「歴史を学ぶおもしろさ」は、それぞれの学生にとってそれぞれの分野での「学ぶおもしろさ」を知ってもらいたいという意図だったのではなかろうか。取り上げられた素材は、甲州山梨県にちなんで「武田信虎晩年の実像」と、先年、加藤廣の小説で話題を呼んだ「本能寺の変の舞台」についてという学生が興味を持ちそうなものであった。

享禄元年(1541)武田信虎が47歳の時、子息晴信(信玄)や家臣たちによって駿河の今川氏のもとに追放され、天正

2年(1574)79歳で亡くなるまでのことについて、弘治6年(1560)の桶狭間の合戦で今川義元が戦死すると、信玄の駿河攻略を画策し、永禄6年(1563)今川氏真によって追放され、上京して將軍足利義輝の相伴衆(御伽衆)となったと通説(例えば『国史大辞典』)では、されている。

しかし、山科言継(1507~1579)の日記『言継卿記』(活字にして2860ページ余を大学院生時代に読破され、『言継卿記—公家社会と町衆文化の接点』を刊行なさった)の永禄元年(1558)3月22日の記事に、「先知恩寺四足門築地今日築、奉公衆沙汰之、立寄見物、甲州之武田入道同馳走也」という記述を発見なさった。これは桶狭間の合戦以前であり、しかも丹波方面からの敵の来襲を防ぐ意味を持つ百万遍の知恩寺の築地塀(防塁)を、畿内から四国にかけて支配していた三好長慶の配下にある奉公衆を指図して修理を行っていることなどから、信虎は相伴衆などではなく、畿内を支配する三好政権(『戦国三好一族』新人物往来社)の軍事顧問的地位(三好氏は水軍には強かったが陸戦には不案内だったので信虎に任せた)にあったのではないかと推測された。このように1行の記述から

信虎のイメージが変わる研究のおもしろさを説かれた(そういえば、山本勘助実在の可能性も北海道釧路の市河文書中の晴信の書状の記述から証明されたものであった)。

また、本能寺については、マンション建設に伴う遺跡発掘により大量の焼け瓦と一緒に石垣を組んだ堀跡が見つかった。天文法華の乱(『天文法華の乱—武装する町衆』平凡社)後、本能寺を含め法華寺院は境内に堀を築くことが認められていなかったのだから、堀があることにより、『信長公記』やキリシタン文献に、天正8年(1580)に所司代の村井貞勝に命じて本能寺に居宅を普請させたとある、その建物にあたるものだろうとされた。本能寺の一角に建てた37メートル四方ぐらいの、同時代に建てられた園城寺光浄院客殿規模の庭園を備えた住宅用御殿で、安土城から京都に来たときの屋敷だが、城塞化するために堀を造ったものだろうとされた。

さらに、明智光秀謀反の理由について怨恨説が広く言われているが、光秀は秀吉以上に優遇、信頼されていて、城持ち大名になったのも早く、また近江・丹波という京都への要所を任せられていたことからそれは考えにくく、信長にとっては光秀が背くはずがないという思いこみ、それが油断になり、一方、光秀は当時の武将の一人として天下取りを狙って千載一遇のチャンスと判断したものであろうとされた。また、信長の遺体は発見されなかったが、それ



学長の講演に終始聞き入る参加者達

講演会だより 今谷明学長講演会

は丸焼けになり黒こげ状態で本人確認ができなかったもので、本能寺の変も小説・映画のように、まったく無防備なお寺に宿泊して攻められ、欄干から弓を引いたり抜け穴から脱出しようとしたらといったドラマチックな最期ではなかったようだ。

結論として、データをどういう資料とつきあわせて全体を考え直すか、建築も含め歴史学は総合的な学問だと。文献あるいは遺跡など断片的な資料を位置づけることによって全体像を通説にとらわれず考える、例えば、パズルにピースを詰め込むより想像性があって「おもしろい」ということを、具体的にお話し下さった。

入学式の祝辞で、「甲斐の国府（甲府）と鎌倉をつなぐ街道が通っており、山中湖の南側にある籠坂峠は古代以来交通の要地として使われていました。この籠坂峠には、1221年に起こった承久の乱で処刑された京都の公卿・葉室光親の墓が建っています。葉室光親は、後鳥羽上皇の院の近臣で、按察使という高い位にありました。上皇が企てた討幕運動の無謀さに早くから気づき、討幕の企てを止めるように何度も諫めましたが、上皇は聴き入れませんでした。そればかりでなく、上皇から強いられて討幕の院宣を書かされ署名までさせられました。その結果、彼は乱の第一の責任者として幕府に捕われの身となり、この籠坂峠まで護送

され、ここで斬られたのであります。

ところが、幕府軍の司令官、北条泰時が上皇の居た仙洞御所を捜索させた結果、上皇の拳を諫めた光親の諫状が数十通も発見されました。光親は最初から討幕に反対しており、冤罪であることが明らかになったのです。しかし、すでに光親を関東に送り出した後で、赦免の使いを出そうにも間に合いませんでした。「武州後悔、丹府を悩ます。」と「吾妻鏡」は訳しております。泰時は後悔のホゾをかんで悔やんでも悔やみ切れなかったと書かれております。光親は捕らわれて六波羅へ引き立てられてゆく途中にも、「乱を企てたのは私で、上皇は関係がない」と言い張り続けておりました。すべての罪を負って死んでゆく腹であつたらしく見えます。

京都の公卿というと、とかく賢く立ち回るイメージがありますが、承久の乱で見せた葉室光親の言動は、後世の武士道に則った潔いもので、当時も「まことの賢人だ」と、知る人には称賛を惜しま



講師の今谷 明学長

れておりませんでした。しかし、教科書にもまったく登場せず、有名な人物ではありません。わが国の歴史でもまだまだ埋もれた人物は多いのであります。寒さが和らぎましたら、私は籠坂峠の葉室光親の墓にお参りして、花を一束手向けてこようと思っております。

地元の歴史にも時には興味を抱き、故人の上に思いを馳せ、また郷土、とくにこの地元ばかりでなく、皆さんのご出身の地域の文化に興味をもち、ひいて日本の文化は自分達が守る、という心がまえを持っていただければと希望するものであります。」とお話しなされた趣旨と通じるものであり、学生・市民ともども感銘を受けたご講演であった。

社会科学・地域社会学会主催講演会

主催 社会科学・地域社会学会
日時 7月16日(水)
講師 湯浅 誠氏
 (NPO法人生活自立支援センターもやい)代表
 『反貧困』岩波新書 2008年の著者
演題 「反貧困」(仮題)

文大だより

本学陸上競技部

関東インカレ
女子4×400mリレー 2連覇

5月17、18、24、25日の4日間で開催された関東学生対校陸上競技選手権大会（関東インカレ）において、本学陸上競技部が女子4×400リレーで見事2連覇を達成した。



優勝カップと花束を受け取る上田千暁選手

昨年初優勝を飾り連覇がかかったこの種目、1走：鈴木千夏（初教1年）、2走：飯尾絢（初教2年）、3走：小澤洋子（初教3年）、アンカー：上田千暁（初教3年）のオーダーで臨み、早稲田大学、中央大学との三つ巴の激戦を制した。

この他、今年の関東インカレでは、上田が400mと400mハードルで2位、長倉由佳（初教3年）が200mで3位、



女子4×400リレーで見事優勝した四選手（写真中央）

保坂美礼（初教3年）が棒高跳で7位、笹本絢（初教2年）が800mで8位と入賞を果たし、女子総合成績30.5点で7位となった。

また、男子（2部）においても、赤木大介（初教1年）が400mハードルで4位入賞と健闘した。

第39回
つる子どもまつり開催



学生と一緒にパズル拾い



あそびのくいで花いちもんめ

5月18日(日) 今年で39回目となる「つる子どもまつり」に、幼児から小学生の子どもたち約300人とその父兄らが集まり開催された。

地域市民の諸団体や本学学生が、子どもたちを対象に神楽実演鑑賞会、影絵遊び、スライム作りや、のこぎりや金づちを使った木工品作り体験

イベントに取組んだ。

午後からはグラウンドで本学学生も加わり絵パズル拾い遊びなどが実施され、キャンパス内に元気な子どもたちの声が響いていた。

このイベントは、子どもたちを介して地域住民と学生が自主的に取組むものとして最も長い歴史と伝統があり、地

域では5月の恒例行事として市民に定着している。



初めての木工品作り体験に子ども達も夢中

文大だより

図書館
だより図書館から新しい知識の世界へ
－レファレンスってなに？－

図書館では、資料の選定、収集、保存、貸出のほかに、利用者の皆さんに一步進んだ資料の探し方などの調査相談に応じています。

授業で出された課題を、知識の入口のどこから入ってレポートを作成し解決して良いか解らないとき、皆さんはどうしていますか。同じゼミの友達や先輩に聞いたり、ネットの検索で出てきた文章を、まさかそのまま(!) 書いたりはしないと思います



が、時々不安に思うことがあるのではないのでしょうか。またこの先、卒業論文が制作出来るのかすごく心配に思っていないですか。そんな時に思い出してほしい、頼りにされたいのが図書館です。図書館は皆さんと共にキーワードやテーマを一緒に考え、皆さんの知の世界を新しく切り開こうと思っています。

図書館では、レポートや論文作成に役立つ図書や新聞記事、雑誌論文の検索方法を知るために、皆さんからの学習、研究調査相談に日々応じています。

知の迷宮の中庭に入って右往左往してしまったら、迷うことなく図書館3階のレファレンスカウンターに足を一步踏み出してください。新しい知識の世界から何かが始まるはずです。

レファレンスカウンターでは、月～金曜日の午後5時まで学習、研究相談に随時応じています。授業の空き時間を有効に使ってレツトライ！！

二氏に名誉教授の称号を授与

5月28日(水) 本学名誉教授称号授与式が学長室において行われた。

今回名誉教授の称号が授与されたのは、前学長、金子博氏と元初等教育学科教授、小林重章氏の二氏。式典当日、金子氏は所用のため欠席されることとなったが、小林氏には鳥居学生部長、後藤図書館・情報センター長、鶴田初等教育学科主任が列席するなかで、今



名誉教授認定証が授与される小林氏

谷明学長から名誉教授認定証が授与された。

両氏は今年3月に退職したばかりで、小林氏は現在も本学初等教育学科の非常勤講師として活躍中である。

文大だより

教員免許更新制導入と本学の取組

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により平成21年4月1日から教員免許更新制が導入されることとなりました。

この改正により平成21年度以降の教員免許状には10年間の有効期間が付されることとなり、有効期間を更新するためには失効前の2年間で30時間以上の免許状更新講習の受講・修了が必要となりました。

この制度は、その時々で教員として必要な資質能力が保持さ

れるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることを目的として実施されますが、講習内容は大きく分けて①教職についての省察並びに子どもの変化、教育政策の動向及び学校の内外における連携協力についての理解に関する事項（以下「教育の最新事業」とする）と、②教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項（以下「教育の充実に関する事項」とする）の2つに別れ、それぞれ①「教育の最

新事業」を12時間以上、②「教育の充実に関する事項」を18時間以上の合計30時間以上を受講・修了することが更新条件となります。

このため、本学においても今年から文部科学省の委託事業を取込み、予備講習講座として「教育の充実に関する事項」の講習を一部開設することとしたが、既に、県内外の現職教員や本学卒業生などからは、来年度更新制導入後に予定される講習に対して本学の取組を期待する声が寄せられています。

平成20年度予備講習講座 —免許状更新講習プログラム開発委託事業— 都留文科大学「教員免許状更新講習」

テーマ：いま求められる学習指導のあり方

■日程と内容

【第1日目】7月31日(木) 会場 本学2号館101教室

- ・午前 8:50～午前 9:10
受講受付(本学2号館)
- ・午前 9:10～午後 0:20
講座A：「読解力」を高める授業づくり〔主に小中向き〕
 - ①PISA型学力を高める授業のアイデア
 - ②「比べ読み」によるテキストの「熟考・評価」
 講師：鶴田清司(本学初等教育学科教授)
- ・午後 0:20～午後 1:20
休憩(昼食)
- ・午後 1:20～午後 4:30
講座B：惹きつけ、つなげる授業づくり〔主に小中高向き〕
 - ①教材づくりを楽しむ
 - ②社会科の学力をとらえ直す
 講師：不破 修(本学初等教育学科非常勤講師)

【第2日目】8月1日(金) 会場：本学2号館101教室

- ・午前 8:50～午前 9:10
受講受付(本学2号館)
- ・午前 9:10～午後 0:20
講座C：子どもの課題意識と問題解決能力を育む〔主に小中高向き〕
 - ①「総合的な学習の時間」創設の意義と今次改訂のポイント
 - ②「環境」に係る内容の活動例(実習も含む)
 講師：木下邦太朗(本学初等教育学科非常勤講師)
- ・午後 0:20～午後 1:20
休憩(昼食)

・午後 1:20～午後 4:30

講座D：〈書くこと〉を取り入れた〈読むこと〉の指導〔主に中高向き〕
～読解力と表現力をアップするための授業の工夫～

講師：牛山 恵(本学国文学科教授)

講座E：第二言語習得研究から英語教育を考える〔主に中高向き〕

- ①発達過程にある学習者言語とは
- ②言語習得の認知プロセスを考慮した指導法とは

講師：奥脇奈津美(本学英文学科講師)

講座F：経済データを利用した学習指導〔主に中高向き〕

- ①簿記会計の知識を活用した金融経済の学習
- ②貿易統計を活用した近現代日本の経済構造の考察

講師：村上研一(本学社会学科講師)

※各講座は途中に10分間の休憩を含み、最後の30分間で試験を行います。なお、受講者には事前及び事後のアンケート回答をお願いいたします。

※受講者は、講座A～Fのうち、2講座以上(合計6時間以上)を自由に選択して受講してください。試験に合格すると、「教育内容の充実に関する事項」(選択)の6時間受講が認定されます。

【問合せ先】

総務課総務企画担当

文大だより

オープンキャンパス開催

本学では、オープンキャンパスを開催し、受験生やご父母、高校・予備校で指導されている先生方に本学の学部・学科の紹介、卒業後の進路、入試情報などについて、詳しく説明しています。

例年参加者には好評を博しており、今年も下記日程で、夏季・秋季2回のオープンキャンパスを開催いたします。

《夏季オープンキャンパス》

平成20年7月26日(土)

■午前9時～午後3時

【主な内容】

大学説明会(高校1.2年生対象)/学科別説明会/学科別特別講義/卒業後の進路と就職状況説明会/進学相談会/留学制度相談会/学生生活相談会/キャンパスツアー/学食体験/体育会、文化会等の活動報告

◎来場者に都留市水源の水ペットボトルを無料配布します。

《秋季オープンキャンパス》

平成20年10月16日(木)～10月28日(火)(水曜・土曜・日曜を除く)

■午前9時10分～午後4時20分

【主な内容】

公開授業体験/キャンパスツアー/進学相談会

【申込方法】

本学のHPへの直接申込とFAXによる申込があります。

受付開始(専用HP開設)は、夏季・秋季共に開催日1ヶ月前を予定しています。

【問合せ先】

総務課総務企画担当



学生による進学相談

文大名画座の開催

第5弾不朽の名画シリーズ 全4回(6月～7月)

本学では、市民と学生を対象とした「文大名画座」を開催しています。今年は6月18日から7月9日までの間(毎週水曜日全4回)、会場を本学2号館101教室において開催しています。

今回はアニメ、サスペンス、ア

クション等あらゆるジャンルの映画を本学教員が、それぞれの映画作品の解説や思い入れを上映前後に語ります。



6月18日(水)

作品名「シュレック3」

解説者 寺川宏之(初等教育学科教授)

6月25日(水)

作品名「ダ・ヴィンチ・コード」

解説者 鳥原正敏(初等教育学科准教授)

7月2日(水)

作品名「ミッドナイトエクスプレス」

解説者 清水雅彦(初等教育学科教授)

7月9日(水)

作品名「燃えよドラゴン」

解説者 中地 幸(英文学科准教授)

人 事 異 動

平成20年4月1日付の人事異動は次のとおり、氏名の前が異動先()内は前職

任命

都留文科大学長 今谷 明

採用

社会学科教授 渡辺豊博
社会学科准教授 菊池信輝
社会学科講師 村上研一
学生課臨床心理士 箭本佳己

退職

金子 博(都留文科大学長)
小林重章(初等教育学科教授)
三井須美子(初等教育学科教授)
稲岡 勝(国文学科教授)
河村茂雄(初等教育学科教授)
矢野久幸(図書情報課課長)
小林加恵(学生課副主幹)

転入

総務課課長 相川 泰(政策形成課課長補佐)/総務課主幹 志村元康(健康推進課副主幹)/学生課副主査 佐藤雅子(税務課副主幹)/学生課副主査 佐藤ひとみ(学校教育課主査)/総務課副主査 山本

京子(税務課副主査)/総務課副主査 相川 薫(政策形成課副主査)

転出

市民・厚生部長〔兼〕福祉事務所長 浅川 博(総務課課長)/市立病院事務局主幹 牛田弘長(総務課課長補佐・入試室長)/産業観光課副主幹 清水すま子(総務課主査)/会計課主任 都倉孝子(総務課主任)

配置換

総務課課長補佐・入試室長 渡辺厚(総務課主幹)/総務課主幹 重森収(図書情報課主幹)/総務課副主幹 宇佐美千里(図書情報課主査)/総務課主査 吉田時代(図書情報課主査)/総務課主査 小林啓子(図書情報課主査)/総務課副主査 伊藤英里果(図書情報課副主査)/総務課副主査 日向良和(図書情報課主任)/総務課主任 関戸章雄(図書情報課主任)

昇任

学生課主幹 尾曲千代子(学生課副主幹)/学生課主幹 相川博明(学生課副主幹)/学生課主幹 小林泰憲(学生課副主幹)/総務課技能員 都倉一憲(総務課技能員)

昨年度の、広報委員会の大きな仕事のひとつであった大学案内の改定作業が終わり、今春、新しい大学案内が発行された。以前のものと比べカラーページが増え、更に美しいものとなったと思う。皆さんの御感想はいかがであろうか。

さて美術界で春の大きな話題といえば「アートフェア東京」がその一つであろう。アートフェアとはギャラリーの見本市である。4月4日～6日に東京国際フォーラムで開催された「アートフェア東京2008」は日本における最大級のフェアであり、主に日本の有力画廊が古美術から現代美術まで、幅広く作品を出品していた。また、入場者数は4万3千人で、海外からの来場者も多かった。

私がアートフェアに参加して改めて感じたのは、現在の日本美術は多様であり、世界に誇る成熟した文化であること、その裾野の広いこと、それを育む必要としている社会があることであった。これらには明治から行われてきた美術教育が大きい

編集後記にかえて

美術の力



鳥原正敏

アートフェア東京2008会場にて

く影響しているわけだが、その功績を単に作家や作品を生み出したことだけで評価するべきではないと思う。むしろ、今日の豊かな情操を持つ、文化的な社会を作り上げたことを高く評価するべきであろう。

ところで、教育問題として学力の低下が話題になっている昨今、教科としての美術はどうであろうか。美術の力は、他の国や時代と単純に比較して優劣を決めることはできない。また、学んだことが直接社会の中で役に立たないといった理由で、美術教育が教科として軽んじられてはいないだろうか。

しかし美術には社会を豊かにする力があると思う。私は会場で様々な作品を観たり、来場者と話しながら、次の時代が豊かな社会であるためにも、今一度「社会や文化を創る」といった視点で美術教育を捉えなおし、考えてみる必要があるのではないかと思った。そして、学生の皆さんだけでなく多くの方にも、美術の力について考えてほしいと思う。

本 ぶんだい堂

俳諧研究文献目録

一連歌・俳諧・雑俳・川柳一

楠元六男／監修

2008年3月 出版



日外アソシエーツ

45,000円 (本体42,857円)

◇くすもと むつお

国文学科教授

フリードリヒ 崇高のアリア

新保祐司／著

2008年3月 出版



角川学芸出版

2,520円 (税込)

◇しんぼ ゆうじ

国文学科教授

編集：都留文科大学広報委員会

杉本光司 (委員長)

鳥原正敏 (副委員長)

高橋宏幸 鷺 直仁 菊池信輝

岸 清香